

## 就労支援部会ワーキンググループ 議事録

10月29日(水)		cグループ			
進行	分野氏	発表	堂本氏	記録	事務局 熊本
ワーキングルール		・進行、発表者を決める。 ・意見は簡潔に述べ、平等に発言の機会があるようにする。 ・特定の機関、立場を否定する発言はしない。			
【前回までのふりかえり】					
・ 一般就労移行ワーキングは、地域の就労支援事業所からの一般就労の促進を目標にしている。 ・ 企業との関わり、(障害者)受け入れ状況、定着支援の重要性なども話題に上がっている。					
【就労系事業所との関わりについて】					
ふっとわーく					
・ 移行支援事業所は積極的な支援会議の対象になっていないのが前提。理由としては、移行支援事業所は一般就労への移行が目的にあるから。そのため、主たる支援会議の対象としては継続支援事業所で連携しながら一般就労へのサポートをおこなっている。 ・ 昨年度 A 型から 3 件、B 型から 6 件、今年度は現在まで A 型から 4 件、B 型から 2 件の支援依頼がある。いずれも就労継続支援事業所から直接依頼があった。相談員からの依頼を含めるとそれ以上の数になる。					
福井障害者職業センター					
・ A・B・移行との接点はジョブコーチ支援。B 型や移行から就職された方への定着支援。 ・ 数は多くないが、時々職業評価で利用していただくこともある。 ・ 関係機関向けの研修が接点としては一番多い。					
ハローワーク					
・ 基本はご本人(個人)への支援となるが、面接会では半分程度の方に支援者が同行されている印象。 ・ 面接会で、昨年度は 50 社、今年度は 59 社。除外率の関係で建設業、医療系も。来年度雇用率 2.7%を見据えた動きがある。					
商工労政課					
・ 「就職支援セミナー」を実施している。就労支援事業所を通じて一般就労を希望する方に対して、「履歴書の書き方、面接の受け方」などの内容。本年度は 21 名の方が参加した。就労支援事業所からお申込みいただいている。嶺北単位の事業なので福井市以外でも OK。 ・ セミナーは 1 日。1 日が難しい場合は日を分けて 3 時間ずつ。 ・ 申込は 9 月頃で、実施は 9～10 月ごろ。その後、面接会に繋げる。アフターフォローは 1 人につき 2 回まで。					
夢つづき(移行支援)					

## 就労支援部会ワーキンググループ 議事録

- ・ A/B 事業所間の関わりは少ない。多機能（B も併設）なので、自事業所内での変更（B→移行）や、相談員を通じて他 B から移行支援を利用する人はいる。

### 前進主義（移行支援）

- ・ 法人内に A・B・移行・定着のサービスがあるので、他の B 型事業所との連携は少ないが、他事業所からの企業情報の提供を受けて、見学や就労につながるケースは毎年ある。

### 【情報交換等】

- ・ ジョブコーチ支援や定着支援等で頼りにしている。
- ・ 公務員のリワークの場合、サポートが難しい面がある。
- ・ 公務員のリワークに定着支援は利用できる。
- ・ A 型、B 型の利用者で一般就労をする際の困難さは？
- ・ パソコン業務を主とする A 型の場合は、専門的な資格を持っている方が働いている。一般企業ではその資格を上手くいかしきれないケースもある。
- ・ B 型を利用することで安堵感が強くなる傾向があるのでは。一般就労に移行しない。
- ・ 独自の工賃システム（キャリアパス的）を導入。間近でステップアップしていく人を見て、他の利用者もモチベーションが上がる。
- ・ 選択支援事業がはじまり、ワークサンプルを導入した。いろいろな仕事の体験が出来るようになった。利用者支援に活用して一般就労に繋げていきたい。
- ・ ハローワークとしては個別対応になる。企業説明会、企業面接会は毎月実施している。
- ・ 「面接会」があると、それを目標にモチベーションが上がる利用者もいる。
- ・ 企業側でも「雇いたい」となると、面接会となる。
- ・ ふっとわーくでは「ピアサポート活動」を毎年度開催している。新しい事業所にも活用していただきたい。

ジョブコーチ支援の際に、実習時は B 型職員が同行し作業も出来ていたのだが、いざ働くとは出来なくなった。一般就労サポート機関と、「どのようにすすめると良いのか」、「定着につながるのか」を共有できる機会が必要。

次回	月	日（ ）	進行		発表	
----	---	------	----	--	----	--